

# クリップ

## ■入会届・退会届について

葉書に、①氏名(ふりがな)

- ②住所 ③電話番号 ④生年月日 ⑤性別 ⑥送本開始(停止)月を記入の上、本社に提出してください。退会届の場合は、①②⑥の記入をお願いします。急な送本停止には対応しきれませんので、ご了承ください。

## ■会費納入について

二〇二二年度分の会費を納入してください。会費は、半年分、または一年分を前納することになっていきます。

各欄の月額は次の通りです。

- ・A欄 二〇〇〇円
- ・B欄 一五〇〇円
- ・C欄 一〇〇〇円
- ・購読 一〇〇〇円

二十歳未満の学生は五〇〇円です。(若い人たちは是非ご勧誘ください)

00160・4・179569 地中海社

振替用紙の連絡欄に内訳をお書きください。支社・グループでまとめて納入していただけると幸いです。

## ■原稿用紙の申し込みについて

一冊一五〇円。それに送料がかかりますので、まとめてのお申し込みがお勧めです。本社、または担当の茂木斌までご連絡ください。こちらから発送する際に振込用紙を同封いたしますので、代金はそれを使って振り込んでください。

## ■本誌の追加注文について

本社に葉書にてご連絡ください。代金は一冊一〇〇〇円。会費と同じ「地中海社」の口座にお願いします。

## ■見本誌について

勧誘用に見本誌をお求めになる場合は、送料のみご負担いただけます。二冊までなら二〇〇円分の切手を同封してお申し込みください。

## ■歌集を出版する際には

地中海叢書番号をご請求ください。葉書に住所氏名の他に、

①歌集名(未定の場合には仮題でも) ②発行時期 ③版元を記入して本社宛に。折り返し、登録した叢書番号と事務手続きの文書をお送りいたします。

出版後には本社保管用に一冊お送りください。

■九曜書林は、比較的安価な歌集出版を考えていて、自分ではどうしていいか分からず困っている方のために立ち上げました。印刷・製本は、本誌の印刷をしている京成社にお願いしています。二、三〇万円くらいでも予算に応じた出版が可能です。まずは、編集部にご相談ください。

## ■桃原邑子歌集

『沖繩〈新装版〉』注文受付  
ご注文を受け付けています。

一冊2000円(税と送料は桃原氏負担)です。六花書林からの出版ですが、代金の振り替えは九曜書林の口座を使わせていただきます。口座への代金納入をもってご注文とさせていただきます。冊数・氏名を明記の上、左の口座へお願いします。

00180・2・790055 九曜書林  
本社よりスマートレターにてお送りいたします。

## ■本社への連絡について

葉書か封書でお願いします。電話はありませんが、常駐する者がおられますので、誰かが本社で作業している時にしか通じません。急を要する場合には、  
・藤森：☎ 090-8301-6423  
・久我：☎ & FAX 043-241-7925  
までご連絡ください。

10月から郵便物(手紙・はがき)・ゆうメールの土曜配達休止、届けられる日数も一日程度繰り下げとなります。原稿は、これまでよりも締切日に余裕をもってお送りください。

# 神田通信

● 歌稿の送り先について ●

十月以降も

月々の歌稿の送り先は

263-0031 千葉市稲毛区稲毛東

6-10-2-1202

関谷方 久我田鶴子

締切は、毎月十日必着です。

郵便物の土曜日配達が十月から休止、届けられる日数も繰り下げとなります。時間の余裕をもってお送りください。

新型コロナウイルスによる状況が落ち着くまで本社に集まって作業することを控えています。

よろしくお願いいたします。

◆二回目のワクチン注射を受け、

筋肉痛と微熱。効果がある証拠、生きてる証拠とおもうことにする。コロナ禍の中の二度目のお盆がくる。

(棺垣)

◆TV番組「やまと尼寺精進日記」の音羽山観音寺を訪ねた。一時間の急な山道はキツイが、庵主さんにお会いして心がすうつとした。精進料理も絶品。

(高尾)

◆今年の川口市文化祭短歌大会の開催を決めた。十月十日無事開催、三十名の参加を祈っている。

(藤森)

◆スケボー女子ストリート13歳西矢栂の金メダル、女子パーク12歳11ヶ月開心那の銀メダル。若さが取ったメダルにはびっくりものでした。五輪は無事終わりましたが、コロナ感染拡大には溜息がでます。

(茂木)

◆コロナと猛暑と大雨。これ以上被害が出ませんように。来年こそクーラーが欲しいが、壁に穴を、そしてコンセントも必要とか。愕然とする。

(木村)

◆連れ合いが私の書架から『小

野茂樹の歌と生涯』を引っ張り出して読んでいる。「活字がもう少し大きいとなあ」などつぶやきながら。

(藤田)

◆梅雨に逆戻りしたような毎日です。暑くないのは助かるがどうも夏らしくない。気温が高いときは温暖化で騒ぐけれど、こんな時はどう言うのだろう。

(成彦)

◆腐れ彼岸とはよく言うが、お盆が丸々雨とは、農産物への影響も心配です。

(和美)

◆レモンの種を播いてみたら、濃みどりのピンとした双葉が出た。芽が出るといいうのは、本当に感動的だ。因みに、マンゴーの種も埋めてみたが。

(磯田)

◆同僚が七月にコロナ陽性の中で復職の目処が立たない。感染が収まる見通しもなく、とにかく気をつけるしかない。

(玉井)

◆TOKYO MXの田村淳の訊きたい放題を良く見る。木村草太や古谷経衛が出た時が愉快で、タレントの鈴木奈々の発言で一層面白くなる。

(三好)

◆オリンピック、コロナの感染拡大、猛暑と重なる中で編集作業でした。お盆に入ったので印刷所には八月十六日午前着便で入稿しました。

◆今号は、若林美知恵歌集『逃げ水を斬る』の批評号です。社外から香川哲三氏、小橋美沙世氏のご批評をいただきました。ありがとうございます。

◆年内、歌集の出版が続きます。既に五名の方の歌集が出版に向けて作業が進められています。嬉しいことです。

◆十月は創刊者・香川進の九曜忌の月。コロナ禍の中で特別なことはできませんが、それぞれに作品に触れることで偲んでいただければと思います。お墓のある経堂の西福寺の銀杏の木は、今年もたくさんの実をつけていることでしょう。

◆十月十日締切の十二月号は、自選号です。この一年の作歌を振り返る機会にもしてください。なお、原稿の発送は余裕をもってお願いします。

(久我)